

二〇二三年度 三田学園中学校入学試験問題

前期B日程 国 語

〈注意〉各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「失敗学」について語る前に、言葉の定義を正確に行っておきたいと思います。これをしっかりとやらないと、なにが失敗なのか曖昧になり、プラス面に着目した^①有効な活用ができなくなるからです。

とかく負のイメージが付きまといがちな「失敗」という言葉を『広辞苑』^注で調べてみると、「やってみたが、うまくいかないこと」「しそこなうこと」「やりそこない」「」などの説明が並んでいます。日常的に使う言葉としての「失敗」ならこの程度の理解でも十分ですが、「失敗学」という体系の中で扱^{あつか}う以上、その特性が一目で理解できるようにもう少し厳密な定義をしておくことにしましょう。

(A)、「失敗学」における「失敗」は、いったいどのようなものを指すのでしょうか。ここでは「人間が関わって行うひとつの行為が、はじめに定めた目的を達成できないこと」を失敗と呼ぶことにします。別の表現を使えば、「人間が関わってひとつの行為を行ったとき、望ましくない、予期せぬ結果が生じること」とすることもできます。「人間が関わっている」と「望ましくない結果」のふたつがキーワードです。

私たちが経験する実際の失敗は、小さいものから大きなものまでじつに多種多様です。設計者の知識不足や不注意から当初の目的を果たさない機械をつくったり、うっかりした一言で相手を怒らせて商談がパーになった、商品企画や販売企画が不適切だったために商品がまったく売れなかったなどという話は巷^{ちまた}にあふれています。

(B)、雨のときの予定を考えていなかったので旅行が楽しくなかった、レシピをよく見なかったから料理がうまくつくれなかったなど、まわりの人に迷惑、被害を与えるわけでもない小さな失敗も、身近なところでは日々繰り返されています。

そうかと思えば、小さな失敗が新たな失敗を呼び、死亡事故や大惨事を引き起こすケースもあります。人々を恐怖に陥れる事故や災害も、もとはといえばケアレミスのような些細な失敗から始まることがよくあります。

(C)、すべての事故や災害が、失敗を原因にして起こるわけではありません。事故や災害の中には、地震や津波、火山噴火、台風など、人間の行為に関わらず、自然現象として起こるものも多くあります。人間の力では防ぎようのない^②これらは、「自然災害」と呼んで失敗とは明確に区別すべきでしょう。

とはいえ、根本的な原因に人間が関わっていないこれら自然災害の中にも、失敗として分類してもおかしくないものもあります。たとえば、大雨によって堰^{せき}が決壊したり、地震によって建物が倒壊したりするケースでは、自然災害が根本原因でも「人災」と呼んだりすることもあります。人間がつくったものが、本来の用を果たしてないわけですから、こうした場合もやはり失敗と考えるべきです。

また、火山噴火の兆候^Xが現れたとき、火山活動の観測や避難勧告を行うなどの形で人間が積極的に関わることもあります。その際、被害の拡大を断ち切ろうとする人的な努力が、いまは当たり前のように行われています。最近の例では、北海道の有珠山や伊豆諸島の三宅島など火山活動が活発化した際、この種の問題に直面しました。

人間の力では防ぎようのない自然災害を前にしたとき、仮に、火山噴火の兆候があっても危険地域の指定によって人々の立ち入りを禁止するな

ど適切な対処を行わなければ、場合によっては多くの犠牲者を出しかねません。自然現象を原因にするものにも、現実には、人間の関わり方いかんで結果を大きく左右するものもあり、これも失敗のひとつの形と考えるべきでしょう。

「失敗学」における基本的姿勢は、私たちの身近で繰り返される失敗を否定的にとらえるのではなく、むしろプラス面に着目してこれを有効利用しようという点にあります。

つまり、失敗の特性を理解し、不必要な失敗を繰り返さないとともに、失敗からその人を成長させる新たな知識を学ぼうというのが「失敗学」の趣旨なのです。別のいい方をすれば、マイナスイメージがつきまとう失敗を忌み嫌わずに直視することで、失敗を新たな創造というプラス方向に転じさせて活用しようというのが「失敗学」の目指すべき姿です。

失敗体験に積極的に学ぼうとする「失敗学」が生まれた背景には、失敗を恥と考えず、これを真正面から受け止めることで多くのことを学んできた私自身の経験があります。もともと ^I 実際には大学で「失敗学」という名の講義を私が行ってきたわけではありません。

私自身は、大学ではふだん機械工学という学問を教えています。 ^{II} その中で、学生たちの理解を实のあるものにしようといういろいろと効果的な指導法を考えてきましたが、いわばその過程でごく自然な形で生まれたのが、「失敗学」なのです。

当初、私はこれに特別な名前もつけず、学生たちを指導する際には、そのエッセンスのみを伝えてきました。ところが、失敗は社会のありとあらゆる場面にあります。機械工学とは無縁のそうした失敗についても目を向け、これを分析するうちに、世の中の多くの失敗もまたこれを真正面から見つめることが、不必要な失敗の防止になり、さらには新たな創造につながるということを知りました。そこで、このエッセンスをあらためてまとめてみようと考えたわけです。

(D)、そのときは「失敗学」という名前は考えていませんでした。 ^{注4} 立花隆さんとお会いした際、私が失敗についての話をいろいろしたところ、「それだけ広範囲に失敗を取り上げるんだったら、『失敗学』というひとつの学になりますね」といわれたので、その言葉を使わせてもらうことにしたのでした。

人はなぜ失敗に学ぶ必要があるのでしょうか。「失敗学」の基本的なスタンス ^{注5} でもあるこのテーマを考える上での重要なヒントは、これもまた私自身の体験の中 ^{注6} にありました。

プログラムでも簡単に触れましたが、学生たちへの指導を通じて痛感したのは、失敗することを決して否定的にとらえてはならないということです。また、教育現場で真に求められているのは、正しい知識の伝達もさることながら、失敗を怖れずに伝えるべき知識を体感・実感させることであり、本当の意味で身につけて使える知識は、そうした体感・実感なしにはマスターできないということです。

機械工学を学ぶ学生たちはエンジニアの初心者、デザインを学ぶ学生はデザイナーの初心者、経済学を学ぶ学生はエコノミストの初心者といえます。そして、どこの教育現場でも事情は同じかと思いますが、彼らのような初心者の学習と失敗とは、本当に切っても切れない密接な関係にあ

ります。

実際、エンジニアの初心者には、お手本となるサンプルを一切あたえずに自分自身でもものをつくらせてみると、誰しもはじめはまともなものなどつくれず、まず間違まちがいなく失敗します。デザイナーやエコノミストの初心者もかりで、手本を示さずに知識のないゼロの状態からデザインなり投資計画なりを立てさせても、まともなものなどできるはずがありません。

このとき、向学心Zの強い初心者ほど、「痛い」「つらい」「損をした」という気分を味わい、強い挫折感せつつかんを感じるものです。むしろこの挫折感せつつかんは、あらかじめ手本を示してこれをマネさせる、いわば正解への最短の道を進む指導をすれば避さけて通とることもできるものですが、その場合、本人はほとんどなにも得られません。

つまり、^③ どちらの指導方法を採用かで、両者の間に明らかな差が生じるというのが、長年の指導経験で得た答えだったのです。

(畑村洋太郎『失敗学のすすめ』より)

注1 広辞苑……国語辞典の名前。

注2 機械工学……機械についての技術を研究し、新しい機械を開発する学問分野。

注3 エッセンス……物事の本質。

注4 立花隆……ジャーナリスト、作家、評論家。

注5 スタンス……物事に対する立場や態度。

注6 プロローグ……作品の前置きの部分。序章。

問一 〰〰〰部X「兆候」・Y「創造」・Z「向学心」の意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

X「兆候」 ア 予報 イ 想像 ウ 前ぶれ エ 災害

Y「創造」 ア 頭の中に思い描くこと イ 美しいものを作り出すこと

ウ 良い方向に向かうこと エ 新しいものを作り出すこと

Z「向学心」 ア 負けずに争おうとする意気込み イ より高いものを目指して努力する心

ウ 学問にはげもうと思う志 エ 逆境にくじけない強い気持ち

問一 (A) (B) (C) (D) に入る言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度以上

用いてはいけません。

ア むろん イ また ウ じつは エ それでは

問二 部①「有効な活用」とありますが、筆者が考える「有効な活用」とはどのようなことですか。解答らんにあうように、それぞれ二

十五字以内でぬき出して二つ答えなさい。

問四 に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あきらめ イ しくじり ウ やましき エ べんきよう

問五 ……部 a「これら」、b「こうした場合」について、「失敗」という観点から見た場合の両者の違いを「aは、bは」という形で説

明しなさい。

問六 部②「この種の問題」とはどのような問題ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア こちらが望んでいないことが偶然に起こってしまう問題。
- イ 人間の関わり方次第で結果が大きく変化するような問題。
- ウ 自然現象や自然災害などが原因で起きるいろいろな問題。
- エ 人間の些細なケアレスミスによって引き起こされる問題。

問七 部③「どちらの指導方法を採用かで、両者の間に明らかな差が生じる」について、「どちらの指導方法」とありますが、二つの指

導方法をそれぞれ十五字以上二十五字以内でぬき出して答えなさい。

問八

部Ⅰ「実際には」・Ⅱ「その中で」がかかっている部分を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ アもつとも 実際には イ大学で ウ 「失敗学」という名の エ講義を オ私が カ行ってきたわけではありません。

Ⅱ その中で、ア学生たちの イ理解を ウ実のあるものに エしようと オいろいろと カ効果的な キ指導法を ク考えてきましたが、ケいわば コその過程で サごく シ自然な ス形で セ生まれたのが、ソ「失敗学」なのです。

二、次の文章は、駅伝の本番を二週間後にひかえ、試走が終わった陸上部のメンバーの会話である。俺(渡部)、俊介、榊井の三人は陸上部の男子部員である。以下の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「ああ、緊張した。試走もこれで最後だと思うと、力が入る」

俊介がバナナを食べながら、俺のそばに寄ってきた。俊介は昼ごはんになると、いつもやってくる。そして、俺の弁当箱を覗きこむのだ。うっとうしいやつだな。食えよ」

俺は俊介の前にいつものように弁当箱を置いた。どうせばあちゃんの作るおかずは、一人で食うには多い。

「いただきます」

俊介は(A)鶏の照り焼きを手にした。

「おお、これ、おばあちゃんの味だ。うちのばあちゃんも、なんでも生姜で味つけるんですよ」

「あっそう」

俺は俊介に代わりに食べてと渡されたバナナを口にした。

「僕結構、味にうるさいんです。渡部先輩の家の卵焼きは甘めですね」

「そうかな」

「うん、榊井先輩が好きそうな味」

俊介はなんでも幸せそうに食べる。そして、^①俊介の言葉の端っこには、しょっちゅう榊井が出てくる。

「お前はなんでも榊井だな」

そう言うと、俊介は卵焼きを口に入れたままじっと俺の顔を見た。

「お前はすぐに榊井だな」

俺はもう一度繰り返した。

すると、卵焼きを飲みこんだ俊介は、

「渡部先輩は、おばあちゃんが嫌いななの？」

と言った。全然会話になっていない。

「じゃあ、俊介は柵井のことどう思ってるの？」

俺も同じように訊いた。

お互いにひっかかっていることをそのまま口にしただけで、二人とも答えようとしないから、質問だけが浮かんでいる。どっちの答えが重いのだろうか。どっちの壁が厚いのだろうか。どっちが先に開く？ 俺は俊介の目を見て、思わず噴き出した。俊介もまったく同じことを俺の顔からうかがっている。

「ばあちゃんしかいない俺が嫌いなんだ」

俺は先に口を切った。一応俺のほうが先輩だ。

「俺、ばあちゃん子どもどころか、小学生の時からはあちゃんと二人で暮らしてる」

七歳の時に両親が離婚した。父親にも母親にも好きな人がいて、どちらの好きな人も俺のことを受け入れなかった。だから、俺はばあちゃんの家で暮らしている。

「そういや、渡部先輩、転校生でしたね」

「うん。小学二年の時な。そこからばあちゃんと二人暮らし」

走った後で気持ちが解放されているのだろうか。口火を切ってしまえば、驚くほどするすると言葉は出た。

「その暮らしが嫌いななの？」

「いや、違うな。そうじゃない」

ばあちゃんとの暮らしは悪くない。世話を焼かれすぎてうんざりすることもあるけど、俺を拾ってくれた人だ。感謝の気持ちは絶対にあるし、大事にされているのもわかる。俺が受け止められないのは、自分自身を取り巻くものだ。みんなに同情されたらどうしよう、馬鹿にされたらどうしよう。みんなとは違うと気付かれたらどうしよう。そんなくだらないことが引かかっていた。

「何も嫌いなんじゃない。みんなと同じでいたいと思っただけなんだ。ばあちゃんと二人でかわいそうとか、親に捨てられたんだとか、そういうふうに思われたくないだけだったんだけどな」

何が普通で何がいいのかはわからない。だけど、^②自分の置かれている環境をさらけ出せるほど、俺は強くはなかった。ありのままの自分ではないなんて、恵まれているやつが使う言葉だ。どうすればいいのかわからなかった。ただ、必死な感じを消して、余裕を身にまとい、気をまわしすぎず、ガツガツもせず、複雑な家庭環境とほど遠いやつになろうとした。それだけだ。みんなと同じ生活をしているように見せたかっただけ

だ。それなのに、今の俺はなんて厄介やっかいなことになっているのだろう。俺は自分を（B）わけのわからないやつにしている。

「キャラ設定に迷ってるうちに、^③ インチキくさい芸術家みたいになったってことですね」

^④ 俊介は冗談じやうだんめかして言った。

「そうかもな」

「おばあちゃん子ならではの世話好きさかって、すぐに打ちやうのに。所詮しよせん無理だったんですよ」

俊介はにこりと笑った。俊介の笑顔えがおは素直すなおさがよく出ていて、作り物じゃないとすぐにわかる。

その顔を見ていたら、（C）打ち明けたことも、俺がおばあちゃん子だったことも、どうでもいいことのように思えた。あんなに必死めいじで隠

していたのに、^⑤ 俺の周りを渦巻うずまいていたどろどろとしたものは、表に出たとたん、 X に変わっていた。

「渡部先輩、親友っていますか？」

次は俊介の番だ。だけど、俊介は打ち明ける代わりに、俺に訊いた。

「まさか。俺にいると思う？」

親友どころか、俺には友達ともだちだと言い切れるやつもない。ずっと自分をつくらっているんだから、当たり前だ。

「どういのが親友かって難しいけど、自分の中を見せてもいいと思える相手は親友って呼んでもいい気がするんです」

「そうかもな」

俺は海苔のりを巻いただし巻きをつまんだ。ばあちゃんの自慢料理じまんだ。（D）甘くて穏おだやかな味。榊井さかぎってこういう味が好みなんだ。俊介は榊

井のことなら、些細ささいなことだって知っている。

「好きなんだろ？」

「たぶんね」

俊介は（E）うなずいた。

「いいじゃん。うん。いいと思うよ」

^⑥ 俺も俊介と同じような人懐ひとなつっこい笑顔を見せようとしたけど、（F）上手に笑えなくて、その顔に二人で笑った。

俺たちの上にある空は、重い雲おおで覆おおわれている。地上の水分を全部吸い取ったような灰色の雲は、少しつづけば水あひが溢あふれださそうだ。でも、二週間後。きつと、そこには青い空が待っている。

（瀬尾まいこ『あと少し、もう少し』より）

問一 (A) ~ (F) に入る言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上

用いてはいけません。

ア どんどん イ ほんのり ウ すぐさま エ かすかに オ うっかり カ ちつとも

問二 部①「俊介の言葉の端っこには、しょっちゅう榊井が出てくる」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問三 部②「自分の置かれている環境」とはどのような環境ですか。三十五字程度で説明しなさい。

問四 部③「インチキくさい芸術家」と言われた「俺」はどのような人物ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身の家庭環境をいつわりながら、余裕を持って行動するような人物。

イ 周囲の人に理解されずに、思わずおかしな行動をとってしまうような人物。

ウ 自分の弱みを見せることができずに、形だけの冷静さを気取るような人物。

エ 本当の姿を見せないように、細心の注意を払って振る舞うことのできる人物。

問五 部④「俊介は冗談めかして言った」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「俊介」はあえて軽く発言することで、「俺」の抱えているものを重く考えるというメッセージを伝えようとしている。

イ 「俊介」は「俺」のことを本当は真剣に考えているが、直接表現するのは気恥ずかしくてごまかそうとしている。

ウ 「俊介」は「俺」の問題に対して解決の力になれないことを自覚しているから、安易な回答は控えようとしている。

エ 「俊介」は共感しながらも、「俺」に同情することで逆に傷つけてしまうと考え、積極的な発言ができないでいる。

問六 部⑤「俺の周りを渦巻いていたどろどろとしたもの」とありますが、具体的にはどのような心情ですか。本文から連続する二文を

ぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問七

Xに入る言葉として最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア とてつもなく大切なもの
- イ なんとか耐えられるもの
- ウ 身に染みて思うもの
- エ 取るに足らないもの

問八

部⑥「俺たちの上にある空は、重い雲で覆われている。地上の水分を全部吸い取ったような灰色の雲は、少しつづけば水が溢れだそうさ。でも、二週間後。きっと、そこには青い空が待っている」とありますが、この部分の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「灰色の雲」と「青い空」という対比を使って、これから先の「希望」を表現している。
- イ 「重い雲」の「重い」という言葉で、俊介の抱える悩みの「重さ」だけを表現しようとしている。
- ウ 「二週間後」という言葉があることで、問題の解決の期限を定めた「決意」を表現しようとしている。
- エ 「少しつづけば」という比喻によって、自分たちの感情も破裂寸前であった「危うさ」を表現している。

三、部のカタカナを漢字に改めなさい。

- 1 商売のサイカクがある。
- 2 会社のギョウセキがのびる。
- 3 美しい糸を使って布を才る。
- 4 音楽の時間にガッショウする。

四、次の【A群】と【B群】が同じ関係になるように、□に二字の適当な言葉を入れなさい。

【A群】

【B群】

1 苦い — 苦み

固い — □

2 拡大 — 縮小

内容 — □

五、次の1～3の意味にあてはまることわざを後のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

1 悪事や欠点を全てかくし通せたと思っても、実際にはその一部しかかくせていない。

2 争いごとや悪いことが起こった後には、かえって物事がうまくいく。

3 人の意見や忠告を聞き流してしまい、何とも思わない。

ア 清水の舞台から飛び降りる イ 雨降って地固まる ウ 海老で鯛をつる

エ 馬の耳に念仏 オ 頭かくして尻かくさず